

第1回ワーキング結果の紹介

- ①第1回地域とのワーキング結果のまとめ
- ②水上村ワーキング 結果
- ③五木村ワーキング 結果
- ④球磨村ワーキング 結果

①第1回 地域とのワーキング結果のまとめ

【山間地域での警戒避難に必要とされている事項】

- 1) 情報について
 - ・ 避難のきっかけとなる正確な降雨情報の提供
 - ・ 災害状況に関する情報の早期入手
 - ・ 避難可能な安全な場所に関する情報共有
 - ・ 防災無線機器の有効性

- 2) 避難所に備えておいてほしい機能について
 - ・ 無線機器・食糧・水・毛布

- 3) 避難経路について
 - ・ 距離・時間はどれくらいかかるのかの情報
 - ・ お年寄りでも逃げられる経路
 - ・ 夜でも逃げられる経路

- 4) 関係機関の連携による情報収集・避難支援・救助支援について
 - ・ 特に道路途絶した場合のヘリコプターによる輸送・搬送
 - ・ 活動する各機関の安全確保策
 - ・ 周辺的安全・危険情報

②水上村ワーキング結果

- ・平成26年2月24日(月)14:00～16:00
- ・於：江代地区避難所（水上村大字江代）
- ・20名強の参加

【過去の災害について】

- ・S 2 9 災害（深層崩壊）、S 4 6 災害の記憶の共有（区長より）

- ⇒安全と思われた避難所を直撃した土砂崩壊
- ⇒道路、通信の途絶、情報入手まで時間がかかった
- ⇒当時からヘリ輸送が活用されていた
- ⇒このような記憶を共有する必要性

【江代地区避難所の活用】

- ・安全な地域での避難所確保
- ・避難誘導の目的地の明確化
- ・関係機関との連携の拠点
- ・地域住民の状況は区長が中心となり把握
- ・各地域から避難所までの移動
- ・各地区から避難所までの場所・所要時間の事前共有

【避難手法の確保について】

- ・道路等危険箇所の把握
- ・関係機関ヘリコプターの連携運用について
 - ⇒道路途絶の場合の2次的避難手段
 - ⇒事前の要救助箇所の情報把握の必要
 - ⇒救援時に障害となる高圧線・索道の情報を共有
 - ⇒調査・救助ヘリの輻輳対策（フォワードベース）

【通信手法の確保について】

- ・通信の確保について（防災無線は整備済。携帯は暫時）

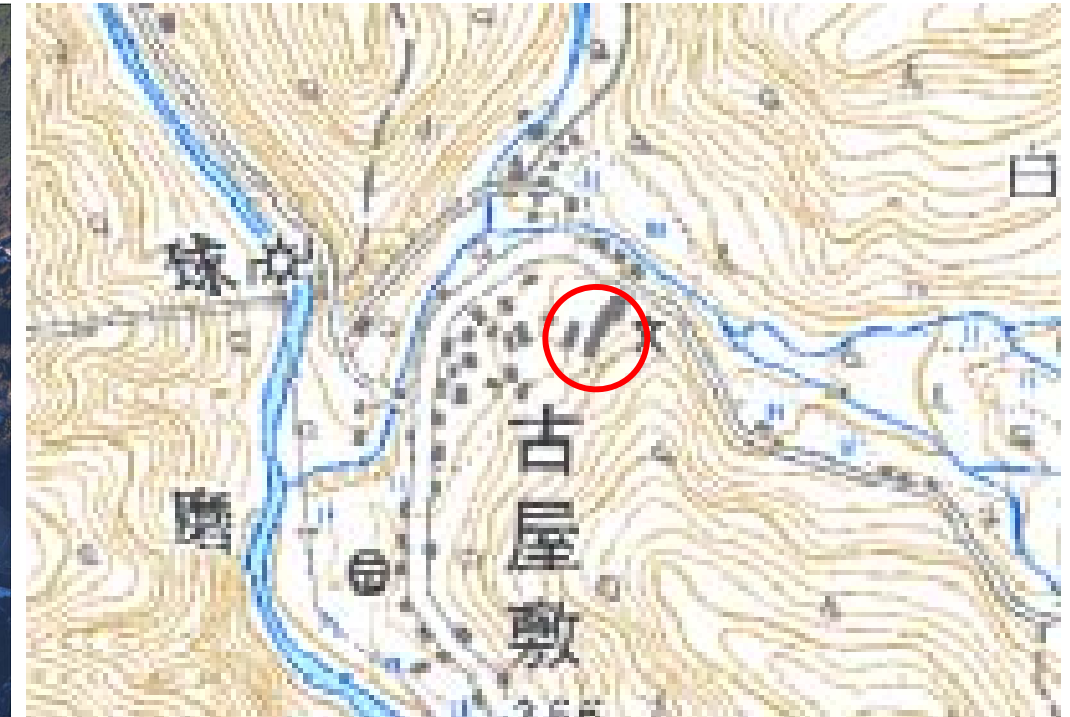
※フォワードベース：被災地近傍の飛行場外離着陸場等で、指揮、離着陸、給油、人員の乗降機、装備・物資等の積み降ろしが可能な拠点



②水上村ワーキング結果（地域の特徴） 水上村江代地区

- ・実際に過去2度ほど深層崩壊による人的被害を経験している（S29,S46）。
- ・新設の江代防災拠点施設の活用がカギ。
高台にあり安心感が高い。各種施設が充実。（備蓄、通信、拠点）
- ・広い範囲からの避難を受け入れる計画。特に二次避難の際、避難所までの移動（km単位）をどのように行うかがポイント。
- ・消防署から、ヘリ活用（ホイスト）の提案有り。
- ・防災無線は村内の集落をカバーできている。

※ホイスト：救急隊員などをホバリングしながら降下させ、傷病者などを救出して機内まで吊り上げるウインチ。



☆赤印は江代防災拠点施設の位置

③五木村ワーキング結果

- ・平成26年3月1日(土)19:30～20:45
- ・於：竹の川公民館（五木村大字竹川）
- ・約35名の参加

【過去の災害について】

- ・S29災害（深層崩壊）、S59災害の記憶の共有
⇒夜間、川沿いに避難していた方が川へ転落して死亡
⇒二次災害を回避するために夜明けを待って救助作業

【避難路の確保について】

- ・1次避難をどこにいつ行うのかが課題
⇒川の近くを通ること、夜は街灯が無く暗くて道が見えにくいことなどから避難のタイミングが計りにくい。
- ・役場としていつ逃げてもらおうのかのタイミングが難しい
⇒お年寄りも多いので「いつ」かが難しい
⇒局地的な雨の降り方が詳しくわかると良い
- ・二次避難時に道が崩れていたら動きようがない
⇒H24災害の時は、近くの集落でヘリ救出の事例があり、皆知っている

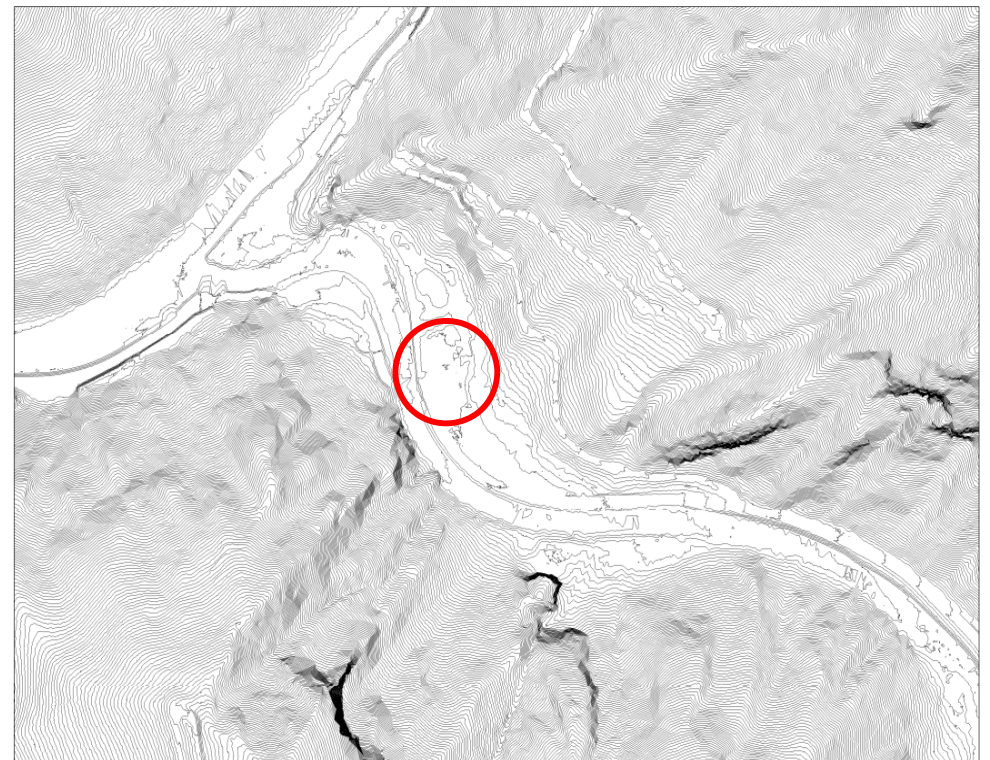
【このほかの意見】

- ・避難勧告以前の避難では、食料等の支援が無いので逃げにくい
- ・避難所への地域としての備蓄が必要なのではないか
- ・夜間などでの訓練を自主的にする必要があるのではないか



③五木村ワーキング結果(地域の特徴)五木村竹の川地区

- ・過去の災害箇所(人的被害有り、対策済み)に避難所が立地(S59)。
- ・お年寄りでも歩いて集まれる範囲の避難だが、夜真っ暗なのと、川沿いなので、夜間や降雨時は、避難行動への不安感が高い。
- ・有線防災端末のみ。各種備蓄は少ない。
- ・地元の方から、地区内での自主的な備蓄・夜間を含めた訓練の提案有り。
- ・周囲の道がしばしば被災するため、二次避難が必要な場合は、ヘリ活用との意見があった。
- ・防災無線は村内の集落をカバーできている。



☆赤印は竹の川集会所の位置

④球磨村ワーキング結果

- ・平成26年3月3日(月)19:00～20:30
- ・於：高沢集会所（球磨村大字神瀬高沢）
- ・約30名の参加

【過去の災害について】

- ・H24北部豪雨の教訓から、災害について考察
- ・大雨時の避難行動は危険。高齢者の避難は援護が必要

【避難手法の確保について】

- ・避難の判断は地域で行うことが必要
- ・集落全体が土砂災害の危険エリアになっており不安
 - ⇒道路寸断のため他地域への避難は不可能、孤立を前提にした準備が必要
 - ⇒集落の上にある学校跡地の広場は安全だが、お年寄りの足では上れない
 - ⇒早期に避難の判断ができれば地域内での車両でも移動ができる
- ・深層崩壊などが発生し、2次的な避難が必要となる場合は、上の広場に移動し、ヘリ（ホイスト）での救助を行うことが必要
 - ⇒ヘリ救助は12月4日の訓練でも実施しており、地域も認識している（ヘリ救助ができることを知っただけでも安心）
- ・現在、広場はヘリ着陸は不可能とされているため、学校跡の建物などを整理して、ヘリの着陸ができるようにしてほしい

【通信手法の確保について】

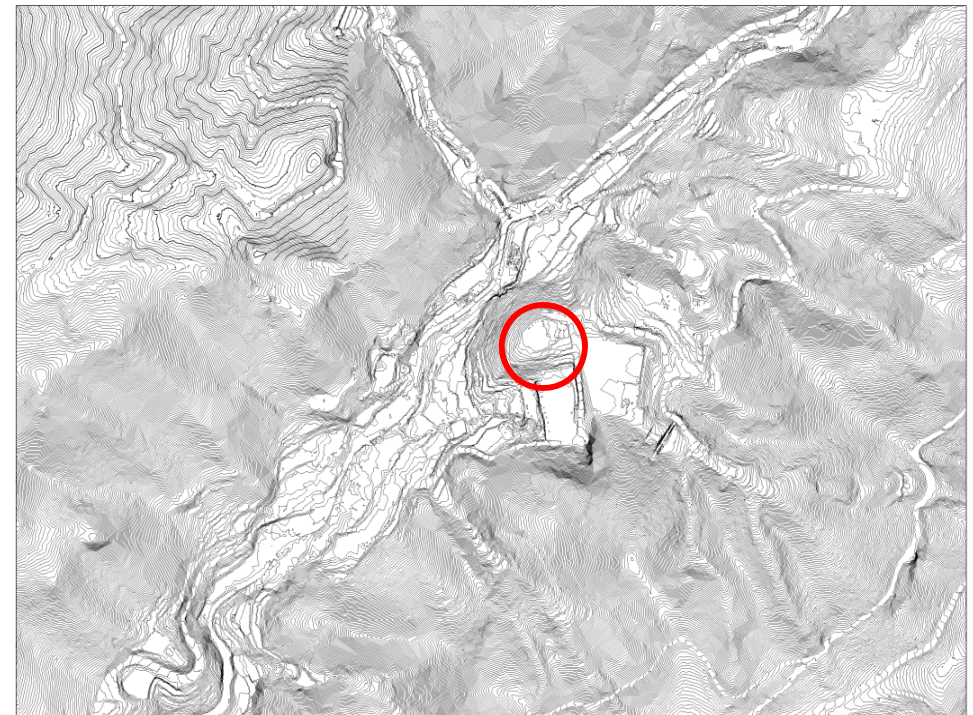
- ・防災無線は地域内で聞くことができるが、役場に返事ができるアンサーバック機能がある端末を避難施設に入れてほしい
- ・大雨予報の情報が地区毎の精度まで向上すれば自主避難する。リアルタイムでピンポイントの情報がほしい



※アンサーバック：子局側から親局側へ通信を可能とする機能。現場からの連絡や現場の状態監視に活用できる。

④球磨村ワーキング結果(地域の特徴)球磨村 高沢地区

- ・ 集落の中心に住居と近い高さに川が流れる。豪雨時に迅速な避難が必要。
- ・ 避難の判断は地区毎に行う意識が高く、正確な情報入手のニーズが高い。
- ・ 避難所は集落の中心近くに位置するが川から近いので、上流側に河道閉塞ができるような場合には、二次避難が必須。他の集落までの道が脆弱であり、高台の小学校跡の広場が安心感が高いが、坂の上なのでお年寄りの避難に工夫が必要。
- ・ ここは現在ドクヘリ・防災ヘリの着陸は難しくホイスト救助が必要
- ・ 避難所・小学校跡の防災無線にアンサーバックがあると良い(川近くの端末にアンサーバックがあるが、増水すると近寄れない)



☆赤印は高台の位置